

令和2年度 全幼研ワクワクプロジェクト研修会報告書

「一人一人の特性を生かした仲間と主に育ち合う保育を求めて」

提出日 R3年1月21日

支部名 滋賀支部

- 実施日 令和2年 10 月 29 日 (木)
時 間 15時00分～ 16時30分
- 共 催 なし
- 会 場 大津市立膳所幼稚園
- 参加者 会員 20名 幼児教育関係者 5名 (計 25名)
- 講 師 所属・職名 相愛大学教授 本部副理事
名前 中井清津子先生

○ 内 容

テーマ「保育における発達理解と援助について考える～講義及びワークショップ」

○ワークショップ 事例から幼児理解を深めよう

3歳児…集団参加がしにくく保護者の支援も必要なケース

4歳児…集団参加がしにくくこだわりの強い子どものケース

5歳児…集団への入りにくさから自己肯定しにくいケース

○講演会 「一人一人の特性を生かした集団作り」

○まとめ（成果と課題）

- 3歳・4歳・5歳の支援を要する子どものケース事案について学年別で協議し、理解分析の項目を共有しながらグループ協議することができた。
- 協議分析の項目が分かりやすく幼児理解と手立ての方策が深まった。
 - 「自立の視点」～からだ（運動・操作力・生活面）表現（表出・表現・感覚イメージ）認知（ことば・知的好奇心・思考力）
 - 「共存の視点」～周りの人とのかかわり（人への関心・対人関係・社会性）

- 「自立・共存」・分析表に沿って協議しながら、その子の理解と適切な手立てについてグループ協議し、様々な意見を出し合いながら、理解の仕方を学び、具体的な方策について視野を広げることができた。
- 講演会では一人一人違った特性の子どもの理解の仕方や考え方などについて学ぶことができ、特別支援教育の基本的な考え方について学び合えた。
- グループ発表では参加教諭たちが意見を取りまとめて発表し、協議内容を共有することができた。
- コロナ対策として人数制限をして実施したが少人数で協議でき、参加者の意見が出しやすかった。
- 講演会の模様を会員のみ制限をかけてユーチューブ配信し、参加できなかった会員にも広く周知することができた。

グループワーク(学年別)



分析表を使って協議

